



港区新橋 5-15-5 国鉄労働組合中央本部 03-5403-1640 発行人 松川 聡 編集責任者 瀧口良二 (組合員の購読料は組合費の中に含む)

月間 4・15 岸田首相の選挙応援演説会場に爆発物が投げ込まれ、容疑者を逮捕 4・21 改正地域公共交通活性化再生法が成立

4・23 衆参5補選で自民党4勝、奈良は維新が獲得 5・7 岸田首相訪韓、元徴用工問題では「心が痛む」と言及、謝罪の表明はなし 5・8 新型コロナウイルス感染症が季節性インフルエンザと同じ「5類」に移行 5・10 財務省が国の借金を

1270兆円超と発表、前年比約29兆円増で過去最大 5・12 改正健康法が成立 75歳医療保険料が引き上げ 5・21 G7広島サミットにウクライナのゼレンスキー大統領を招待、対ロシア制裁の強化と中国の「経済的威圧」対抗策、核軍縮ビジョ

ンでは核抑止力を確認 5・29 岸田首相が公私混同批判の長男秘書官を更迭 5・31 原発60年超の運転を可能にするGX脱炭素電源法案が可決・成立 6・1 米債務上限の停止法案が上院で可決、デフォルト(債務不履行)は回避

国労本部HP QRコード



あらたな戦前にさせない! 守ろう平和といのちとくらし 2023憲法大集会

日本を他国の領土を攻撃する 戦争国家にしてはいけない

平和といのちと人権をうらぶ憲法集会実行委員会主催の「あらたな戦前にさせない! 守ろう平和といのちとくらし2023憲法大集会」が、5月3日の憲法記念日に東京臨海広域防災公園にて開催され、労働者・市民2万5千人が結集した。



2023憲法大集会

憲法大集会のオープニングは12時30分からベースソングの歌が披露され、13時に開会となった。主催者を代表して高田健さんが、「岸田政権は敵基地攻撃能力の保有を明記した安保3文書を閣議決定するなど戦争の準備をしているが、今やるべきは平和の準備です。」



国労の参加者

岸田首相が来月9月までの任期中に改憲を目指すと言っているが、全国で闘いを組織し、改憲を阻止しよう」と挨拶した。スピーチに移り、室蘭工業大学の清末愛砂教授は「物価高騰の中で賃金の大幅引き上げは実現しないが、軍事費は約43兆円に増額されようとしている。『あらたな戦前』を止めるために、皆が繋がりがら、よりよい社会を求めていこう」と訴えた。続いて、沖

戦争する国へと突き進む 岸田政権の暴走を阻止しよう

総がかり 19日行動

戦争させない・9条壊すな!総がかり行動実行委員会と9条改憲NO!全国市民アクション共催の「安保3文書撤回!軍拡増税反対!南西諸島のミサイル配備反対!改憲発議反対!暮らしをまもれ!6・19国会議員会館前行動」が、6月19日に衆議院第2議員会館前を中心に開催され、労働者・市民1300名が参加した。

主催者を代表して、総がかり実行委員会委員長山崎子さんが、「国会で『戦争する国』をめざす悪法が強行採決された。岸田政権が狙う改憲を阻止するには、市民と野党の共闘しかない。つないだ手を放さず、共に闘い、来たる総選挙で岸田政権を打倒しよう」と挨拶した。野党からは、立憲民主党、日本共産党、社民党、参院会派「沖縄の風」の国会議員が

投稿 2023年度 JR西日本新入社員 宣伝行動を実施 4月28日、JR西日本の吹田研修センター前にて新入社員の退所に合わせて組合宣伝を行いました。近畿地本を中心に20名で「国労に入ろう」(組合は自分の意思で決めましょう)



JR西日本新入社員宣伝行動

「国労に加入して職場を良くしよう」と大きな声で訴え、ビラの配布を行いました。また、新入社員が配属された現場でも説明会や訴えを行いました。組織拡大に向け全国でガンバロー!

健康保険証を廃止しマイナンバーカードを国民に強要する改定マイナンバー法が6月2日、参院本会議で自民・公明・維新・国民などの賛成で可決・成立し、2024年秋の健康保険証廃止が決定された。医療現場では既に大混乱が起きている。マイナンバーカードを使った保険資格の確認でトラブルが多発し、本人が持参した健康保険証でトラブルを切り抜けたケースが7割近くもあり、健康保険証を廃止すれば混乱が拡大するのは必至である。マイナンバーカードと公金受取口座をひもづける制度では、本人ではなく家族の別の人の口座が登録されていた事例もあり、行政機関等からの給付金が本人に届かない恐れもある。4日に報じられたJNNの世論調査では、マイナンバーカードの活用による不安を感じているとの回答が72%であった。岸田文雄首相は6日、デジタル社会推進会議で「システムの再点検」を指示する一方、国民の不信を招いたことへの反省もなく、運転免許証、介護保険証などとマイナンバーカードの一体化を進めると表明した。「誰一人取り残されない、人に優しいデジタル化」等と宣伝されているが、介護高齢者や障害者など最も弱い立場にある人々を「取り残す」危険性が大きい。保険証の誤登録は命を危うくしかねない重大な問題で、いま求められているのは、マイナンバーの運用をやめ、問題点をすべて究明することであり、改定マイナンバー法の実施を許さない世論を広げていくことだ。(瀧)

# 第16回全国組織強化・拡大経験交流集会

## 国労組織に展望が持てる態勢を確立しよう

国労本部主催の第16回全国組織強化・拡大経験交流集会が6月4日～5日の1泊2日で開催され、延べ45名が参加し組織の強化・拡大に向け熱心に交流が行われた。

### 「第1日目」

交流集会の第1日目は東京都港区新橋の交通ビルにて開催された。

宮崎浩則総務財政部長が司会挨拶を行い、次第の進行を行った。

主催者を代表して木村忠義執行副委員長が、「コロナ禍において多くの制限があり、一堂に会して開催することは久しぶりになります。次世代を担うJR世代を中心に招集し



平成採用の参加者

ていますが、将来へ組織の展望を見出すのは間違いなく皆さんの世代です。組織展望を見出すには、役員への登用学習・育成対策を直ちに実践すること。一人ひとりが組織に責任を持ち、育てる手立てを組むこと。総対話活動と闘いと、組織拡大を両輪に、取り組みの強化が大事です。闘いがあるところに組織拡大があることは明確であり、次世代への展望と安全で安心して働く、家族と健康で生活できる環境づくりには、組織強化・拡大は欠くことの出来ない重要な課題です。今日と明日で大いに学び、大いに議論し、組織拡大に何が必要かを見出し、全組合員に実践を呼びかけ、共に実践していきましょう」と挨拶した。

続いて講演①に移り、国労弁護団でもある東京共同法律事務所の高津雄一弁護士を講師に、「労働組合の役割と労働者の課題について」と題した講演を一般財団法人国労会館の「中央労働講座」として開催され聴講した。

講演では、①なぜ労働組合が必要なのか。②少数派労働運動の存在意義と目指すべきもの。③少数しか職場にいない中でも取り組める労働運動とは。④団体交渉を活用し、労働条件を改善していくために、一人でも続けられる組合活動にどんなものが考えられるでしょうか。⑤労働組合活動と政治や社会がどのように結びついているのか。⑥今後を担う次世代組合員（JR世代組合員）に伝えたいこと。の六つの質問に対し、故宮里邦雄弁護士が語録を引用しながら回答された。

最後にJRの若き国労組合員の皆さんに期待することとして、「労働者一人ひとりには弱い存在です。しかし、団結して力を合わせる事が出来れば、会社も更には政府さえも動かす事が出来るのです。団結権は、世界の労働者達が血と涙を流しな

ら勝ち取ってきた、生きた権利です。そして、団交と争議が闘いの手段の核なのです。労働者の課題が解決していかない以上、労働者の活動体・労働組合の社会的な役割は、増しこそすれ、なくなることはありません。困難を極めた採用差別事件の闘いの末に勝ち取った和解は、労働運動冬の時代に、団結への希望を灯した金孝塔だといえるでしょう。日本の労働運動の停滞の時期に、JRに勤務し、国労に所属することを決意し、組合員となった皆さんの勇気に、心からの敬意を表します。孤立を恐れず、誠意をもって取り組んでいけば、その姿が同じ職場や地域の仲間へ感動を与え、必ず味方が現れます。まだ見ぬ仲間を含め、多くの仲間達との連帯を信じて、闘いを持続する中に、団結の拡大と労働条件や安全問題における改善の勝利への力があると思えます。皆さんこそが、日本の労働運動の未来を切り開く先導者です。私達弁護団は、皆さんの勇気ある戦いを全力で支援します」と語られた。

講演②では、日本私鉄労働組合関東地方連合会の高梨友和書記長を講師に、「私鉄春闘と労働組合としての課題」と題した講演を聴講した。講演は、高梨書記長の自己紹介から始まり、私鉄の産業別統一闘争について、①産業別統一闘争とは。②一般的に言われる春闘の起源。③コロナ禍の私鉄春闘。④私鉄の23



全体交流風景

春闘を取り巻く情勢。⑤私鉄の23春闘のあと、今後の私鉄秋闘について、組織の態勢強化について、私鉄北海道函館バス支部の闘いについて話され、最後に①労働組合が求められること。②政治政策との

関わり。③今日伝えたいことが述べられた。二つの講演が終わると、本部組織部からの提起として、鈴木郁夫組織部長が、「1行動」なくしてつながりは作れない。「訴え」なくして組織拡大はできない！全組合員で組織強化・拡大を実現させよう！②自分自身や各機関の課題を明らかにし組織強化・拡大を前進させよう！③国労組織に展望が持てる態勢の確立と「次世代の育成」の取り組みを強化しよう！の三つの課題を提起した。

提起を受ける形で、各エリア本部からの報告が北から順に、島見佳法執行副委員長（北海道本部）、彦田貴弘執行委員長（東日本本部）、池田卓司執行委員長（東海本部）、伊野活執行委員長（西日本本部）、綾与利男執行委員長（四国本部）、萩原弘司執行委員長（九州本部）が行い、1日目の交流集会を終えた。

### 「第2日目」

交流集会の第2日目は東京都品川区の「きゅりあん」にて開催された。9時に会場が開かれて直ぐに分散会と全国エリア組織部長会議が開催された。

分散会では、①組織拡大に向けた現状と課題の報告。②組織拡大に向けて、自分や機関でどのような取り組みを行っているか。③加入後の自分や同僚の仲間の変化は。④国労運動の継承（次世代の育成）に向けてどんなことを取り組んで欲しいのか。の四つをテーマに、参加者が四つの分散会に別れて2時間に渡って討論した。

分散会終了後、全体での交流が行われた。最初に各分散会の報告が座長から行われ、第4分散会の森岡英夫執行委員長（神奈川県本部）、第3分散会の橋本翼特別執行委員長（東京都本部）、第2分散会の香川博明青年部副部長（本部）、第1分散会の坪井大地青年部書記長（東日本本部）の順に報告された。その後、参加者からの報告が行われ、小菅隆寛特別執行委員長（東日本本部）、小島己明副分会長（広島自動車分会）、本間寿執行委員長（神奈川県地区本部）、戸田良輔青年部長（東

日本本部、勝田哲也執行委員長（岡山地方本部）、中島英二執行委員長（千葉地方本部）の6名が職場や機関での取り組みを報告した。4月9日～10日の1泊2日で関西において開催された「青年部女性部学習交流会」の報告を本部の山中和也青年部長と谷澤由紀恵女性部長が行い、5月の沖繩平和行進に参加した工藤拓真常任委員（本部青年部）、佐々木雄平支部執行委員長（福島県支部）、松吉祐典常任委員（本部青年部）が参加しての感想を述べた。最後に2日間のまとめを本部の鈴木組織部長が行い、宮崎総務財政部長の閉会挨拶で第16回全国組織強化・拡大経験交流集会を終えた。

## JR大井工場アスベスト裁判報告集会

### アスベスト被害者に対するJR東日本の真摯な対応を求める

JR大井工場アスベスト裁判の第14回口頭弁論が5月17日に東京地方裁判所415号法廷で開廷され、夕方に国労東京地方本部と国労東京支部共催による裁判報告集会が東京都港区新橋の交通ビルで開催された。

JR大井工場アスベスト裁判は、JR大井工場で働いていた黒沼義則さんが石綿ばく露により肺がんを発症したとして、2020年7月に旧国鉄とJR東日本を相手に損害賠償を求めた裁判である。残念ながら黒沼さんは2021年1月に逝去され、息子の努さんらが黒沼さんの遺志を引き継いで訴訟を闘っている。

裁判報告集会は東京支部の伊東敏明執行委員の司会で進行された。

主催者を代表して、東京地本の佐藤治副委員長が挨拶した。

来賓として国労本部の木村忠義副委員長は、「国鉄・JRのアスベスト問題は、国労が唯一取り組んできたと言っても過言ではありません。石綿ばく露は、肺がんや中皮腫などを発症するまで数十年間わたる潜伏期間と抜本的な治療も確立されない中、『静かな時限爆弾』と呼ばれていま

す。本部は、社会問題となっ

る中、これまでの取り組みの成果であると感しています。引き続き国や鉄道・運輸機構への取り組みと、JR各社に対しても救済・補償を求めていきます」と挨拶した。

裁判報告として福田護弁護士から、「9月12日の第15回口頭弁論で結審となる。判決は早く年内、遅くとも年度内には出される。鉄道職場はアスベスト被害者が多く、全

JR東日本は、アスベスト被害の責任を取る体制が取れていないので、この裁判を通じて改善させたい」と話され、山岡遼平弁護士からは口頭弁論の感想が述べられた。

続いて原告証人からの感想。旧国鉄・JR大井工場アスベスト裁判を支援する会からの挨拶。原告である黒沼努さんからの決意を受け、閉会挨拶を東京支部の松田恭明委員長が行い、1時間の裁判報告集会を終えた。



裁判報告を行う福田護弁護士

# 5・15沖縄平和行進 平和の種を持ち帰り 全国にひろげよう



平和行進を終えて



5・15平和とくらしを守る県民大会



結団式会場にて

【第46回5・15沖縄平和行進が5月12日から14日にかけて沖縄県で開催され、国労も青年部を中心に参加した。】

12日の全国結団式(那覇市・琉球新報ホール)では全国から約600名が参加し、南西諸島における自衛隊配備等について講演を受け、その後、宜野湾市の嘉数高台へ移動し、普天間基地の状況等について視察を行った。

13日は平和行進を南部コース・中部基地コースの2コースで行い、今回国労は中部基地コースに参加し、約1000人の行進団でシブプレヒコールを上げた。地元住民の方のイーエルを受ける中で約12キロの行進を行い、基地の現状等について実際に感じてきた。南部

コースについても、約750名が行進を行った。

14日は、県民大会(宜野湾市・沖縄コンベンションセンター)が開催され、全国から約1400名が参加した。県民大会では、安保関連3文書の改訂について、日本政府がこの間「武力を用いない」とした姿勢を根底から覆すものだ」と岸田政権を糾弾し、「平和の種をひとりひとりを持ち帰り、全国に広げてほしい」と呼びかけられた。最後に辺野古新基地建設の断念や平和憲法堅持などをもとめた大会宣言が決議された。

## 沖縄平和行進参加者の感想

### 過去から学び、人間らしく生きていく

本部青年部中央常任委員 工藤 拓真



私は5月12〜14日に沖縄平和行進に参加して来ました。過去に高校の修学旅行で沖縄を訪れたことがあり、ひめゆりの塔がある糸満市、糸満市内の防空壕、通称ガマ、沖縄平和公園を訪れました。当時の写真や実録ガマの中に入り、目を背けたくなることばかりだったと記憶があります。今年で沖縄が日本に返還さ

れて51年目を迎えました。未だに沖縄県全土の約15%がアメリカ軍基地でありアメリカ領土となっています。平和行進で嘉手納基地周辺を視察しましたが、基地のすぐそばには住宅地があり飛行機の騒音は想像以上なものでした。

基地問題は、騒音、新基地移転による海への埋立問題だけでなく、基地内で人間にとって有害な物質が垂れ流し

状態であることです。戦闘機のエンジン洗浄に使う洗浄液には有害物質を含んでおり、瀧過・処理されずそのまま地下に染み込み、地下水から汲み上げている県民の生活水を汚染しています。他にも、南西諸島の全ての島にミサイル部隊配置を計画しており、着実に整備を進めています。

「抑止力」や「日本を防衛」と言えば、聞こえはいいかもしれませんが、

あれませんが、どんな理由があろうと一発のミサイルを相手に撃ち込めば、収集がつかなくなり、そして被害を受けるのはそこに住む国民です。

また日本という国は被爆国であり、武力行使をして植民地支配をした過去があり、今の状態を変える必要があるのでしょうか？

貧困の差の拡大、少子化など問題が山積しており、他に時間とお金を割く必要があると、自分は思います。

### 平和行進に参加して 沖縄の現実を肌で感じられた

本部青年部中央常任委員 松吉 祐典



沖縄といえば、美ら海・首里城・国際通りなどの観光地やソーキそば・サターアーンダーギー・泡盛等を始めとする沖縄グルメなど観光地としてのイメージが私には強くありました。

また、嘉数高台から普天間基地を見て、ニュースなどでは見聞きしていましたが、

軍用機の騒音についても、あんなに身近に感じることがありませんでした。近に基地があるのだと実感しました。

2日目の平和行進では嘉手納基地の横を歩きましたが、改めて何故こんなに広い土地が必要なのだろうか、遊ばせ

軍用機が頻繁に離発着している基地が街のど真ん中に座っている光景に異様さを感じました。

初日は集会に参加して、沖縄の現状、平和行進の意義、コースの説明、注意事項の話でした。嘉数高台公園に行き、高台から普天間基地を見ました。高台から見ると驚いたのは、

街のど真ん中に基地があるという事です。

高校の修学旅行以来2度目の沖縄でしたが、市街地に到着するまで観光気分が抜けませんでした。ですが、初日に嘉数高台へ向かう道すがら地元の人々が普通に生活を営んでいるところも以前は米軍基地であった話や、沖縄には何故鉄道ではなくモノレールが走っているのかなど現地

を見ながらお話を聞き、沖縄の人にとって、こんなにも身近に基地があるのだと実感しました。

また、嘉数高台から普天間基地を見て、ニュースなどでは見聞きしていましたが、

軍用機が頻繁に離発着している基地が街のど真ん中に座っている光景に異様さを感じました。

初日は集会に参加して、沖縄の現状、平和行進の意義、コースの説明、注意事項の話でした。嘉数高台公園に行き、高台から普天間基地を見ました。高台から見ると驚いたのは、

街のど真ん中に基地があるという事です。

事前に調べて場所は分かってはいたのですが、マップと現地を見比べると全然違いました。

普通生活をしてきたことで音と共に生活をしてきたこと、

普通生活をしてきたことで音と共に生活をしてきたこと、

普通生活をしてきたことで音と共に生活をしてきたこと、

普通生活をしてきたことで音と共に生活をしてきたこと、

普通生活をしてきたことで音と共に生活をしてきたこと、

普通生活をしてきたことで音と共に生活をしてきたこと、

普通生活をしてきたことで音と共に生活をしてきたこと、



平和行進(中部基地コース)

普通生活をしてきたことで音と共に生活をしてきたこと、

普通生活をしてきたことで音と共に生活をしてきたこと、

普通生活をしてきたことで音と共に生活をしてきたこと、

普通生活をしてきたことで音と共に生活をしてきたこと、



### 沖縄の人の応援を励みに 平和行進を無事に終えた

仙台地本福島県支部執行委員 佐々木 雄平

私は平和行進に参加するということ初めて沖縄に来ました。

二日目は平和行進に参加して12キロ歩きました。幸いにも天気にも恵まれて、曇りだったおかげで熱中症にならず、無事に歩けることができました。

行進をしていて辛かったのは、右翼の妨害があり、「地元の元じゃないだろ」「県外から来るな帰れ」と言われました。

本心に嬉しかった事です。自分のやっていることは独りよがりではない、応援してくれる人がいる、自分たちの行進は無駄ではなかったと、応援を励みになんとか平和行進を無事に終えることができました。

午前中が終わり、休憩中にネットで平和行進を調べて反応を見ました。そこでも右翼の人が言っているようなことが書いてあって、自分のやっていることに意味はあるのか？沖縄の人達に迷惑をかけるのでは？と複雑な思いで午後歩きました。

沖縄は曇りでも暑く、足も痛くなってきた。どんどん足取りが重くなりました。そこへきて、また右翼の罵声を浴びされて心が折れそうになりました。そんな時にマンションの窓から歩道橋から道から車の窓からいろんな方が手を振って応援してくれました。

報道やネットは、あくまでその人が伝えたい情報しか流していない。人はいろんな考えをそれぞれ持っている。この先の人生において、一方のみを鵜呑みにせず、そして沖縄の人達の思いを周りに伝えて行こうと思います。

報道やネットは、あくまでその人が伝えたい情報しか流していない。人はいろんな考えをそれぞれ持っている。この先の人生において、一方のみを鵜呑みにせず、そして沖縄の人達の思いを周りに伝えて行こうと思います。

第94回日比谷メーデー

働く者の団結で生活と権利 平和と民主主義を守ろう

第94回日比谷メーデー実行委員会が主催する、第94回日比谷メーデーが5月1日に日比谷野外音楽堂にて開催された。

9時45分に本木寛事務局長のオープニング宣言で式典が開会され、中小民間労組懇談会の平賀雄次郎代表が開会宣言を行った。

議長団に全国一般東京労働組合の柳瀬睦美さんと、国労東京地方本部の地口明世さんを選出し次第が進められた。

主催者を代表して鎌田博一実行委員長(国労東京地本委員長)が、「23春闘では物価高騰分を上回る大幅賃上げを勝ち取り、コロナ禍での首切りを許さず、雇用の継続と休業・生活補償・社会保障の充実を求めていこう。ジェンダー平等、均等待遇の実現を

青年らしく後先考えず楽しく 元気いっぱいに行動したい

東日本本部青年部長 戸田良輔



国鉄労働組合へは、2016年に多数派組合を脱退し加入しました。

私は高卒ということもあり「労働組合」についての知識がありませんでした。その中で、「加入者が多い」「労働組合は加入するもの」などの誘い文句を鵜呑みにして、当時第一組合と言われていた、「多数派組合」へ加入しました。

しかし、加入後は「組合」としての活動報告が現場の組合員まで降りてこず、改善要求を役員に話してもはぐらかされるばかりで、「組合」とは何なのか疑問が芽生えてきました。今思えば成果が無いからこそ、何も言えなかったのではないのかと思います。

また、組合の最大の武器である「ストライキ」についての勉強もなく、いざという際に素手で闘うのかと、今と

青年部紹介

なつては労働組合の存在意義を疑問に感じます。

私が「国鉄労働組合」に加入を決めた経緯ですが、ズバリ人間関係です。

配属された職場に懇意にして下さっていた国労の諸先輩がいました。定期的若手社員を引き連れて飲み会にケーションを開催していました。

昨今は、日本の労働組合の組織率は過去最低の16・9%と低下の一途を辿っています。



第94回日比谷メーデー



国労のデモ行進(日比谷メーデー)

メッセーの披露を行った。日比谷メーデー合唱団の歌を挟み決意表明が行われた。決意表明では、郵政産業労働者ユニオンの谷川紀子さんが、非正規社員11名が原告になって、均等待遇を求め闘い、最高裁で成果をあげた報告を行った。全統一労組ビードア分会の長谷川ロウエナさんは、「コロナ禍でホテルの経

4・25安全行動日 安心・安全の鉄道輸送をめざそう

4月25日に死者107名、負傷者562名に及ぶ未曾有の大惨事となったJR福知山線脱線事故から18年を迎えた。

JR各社では、この間、効率化や要員削減を柱とした業務委託・外注化施策が極限まで進められてきた結果、技術継承や教育の不十分さ、労働条件の悪化等により、安全輸送の根幹が揺らぐような輸送障害やトラブル、労災事故が連続して発生している。

今年1月、JR西日本では雪害によって列車が長時間立ち往生し、現場での対応を指

結がらばろうで式典を終えた。その後参加者は、日比谷公園の霞門から新橋駅までの土橋コースと、西幸門から鍛冶橋までの鍛冶橋コースに分かれデモ行進を取り組み、国労は土橋コースに参加した。

ます。正直なところ組合に関しては苦手意識があった為、始まりから終わりまで組合の勧誘話では理由をつけて参加していません。しかし、今となっては、自身の職場環境や生活を守るためには「労働組合」は必要だと思うようになりました。これは個人の意見ですが、組合に苦手意識を持つている社員もいるかと思えます。飲み会の席では熱い話ばかりにならないように注意して欲しいと思います。

Advertisement for 'Days1 WINGS' cancer insurance, highlighting benefits like medical checkups, diagnosis, hospitalization, and treatment costs.

Advertisement for 'がん保険にできることを、もっと。' (Cancer insurance, do more than you think possible.) featuring Affac and Avenier companies.

Advertisement for '生きるためのがん保険Days1 WINGS' with a detailed table of insurance benefits and costs.